

くまざさ

新らしい百年へ次の一歩

「全道・全国大会へ続々と」 猛練習で掴んだキップ VOK(湖陵高校放送局)

一般にVOK (Voice of Koro) と呼ばれる湖陵高校放送局。お昼休みの校内放送など、お気軽な文化系活動を行っている。そんなイメージのある部局だが、実は数年前から担当ごとに分かれて運動系クラブ並みの筋トレを行なうなど、全道・全国大会を目指して猛練習を重ねてきた。その結果、昨年春から夏にかけて開催された、NHK主催による「全国高等学校放送コンテスト」や、「全国高等学校総合文化祭」(略称 高校総文)の北海道大会に多くの局員が出演。札幌市で行なわれた北海道大会では、アナウンス、朗読、ラジオ番組、ビデオ番組などの部門に分かれて審査が行なわれたが、中でも「アナウンス部門」「朗読部門」で優秀な成績をおさめた女性局員3人に話を聞いた。

西村貞広(湖陵30期)

◎吉田花菜子さん(3年)

私は6月のNHK全国高等学校放送コンテスト北海道大会のアナウンス部門で2位にあたる優秀賞をいただきました。以前から、将来はアナウンサーの仕事に就きたいと考えていましたので、VOKでも最初からアナウンス部門での全道大会出場を目標に練習を重ねてきました。結果は2位でしたが、これまでの厳しい練習が報われたように思います。コンテストでは、自分で用意した原稿を1分10秒から1分30秒の間で読むのですが、やはり大会では緊張するので、上手に読むのは簡単ではなかったですね。でもVOKでは、発声練習と筋トレを毎日1時間半ほどみっちり行なってきたので、練習の成果は発揮できたと思います。

VOK(湖陵高校放送局)



吉田さん、木野下さん、大島さん(左から)

◎木野下一華さん(3年)

私もNHKのコンテストの朗読部門において優秀賞をいただきました。上位入賞者は7月に東京で行なわれた全国大会に出場するのですが、会場が代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」や、渋谷の「NHKホール」などの大きな会場なので、とても緊張しました。朗読部門は5作品ある課題本の中から、自分の好きな部分を抜粋して読むのですが、会場も観客も北海道大会よりずっと規模が大きいので、やっぱり緊張しました。私たちはこれを最後に引退しますが、後に続く後輩の皆さんには、VOKの伝統に更なる輝きを加えてもらえるよう、頑張っってほしいと思っています。

◎大島小依花(さえか)さん(2年)

私もNHKのコンテストの朗読部門に出場し、北海道大会では入賞の4位、夏の総文北海道大会では5位でした。もともと趣味として読書をしていたこともあり、VOKでも市内の朗読サークルの先生を講師に招いての練習などを行なってきました。日頃の練習の成果は出し切れたと思いますが、やはり全国レベルの高さは想像以上だったので、今回の貴重な体験を糧として、これからの練習にも活かしながら、次の大会に向けて全員で頑張っっていききたいと思っます。

目次

高橋義雄さん北海道文化奨励賞	2頁	同窓会総会	6頁
同窓会HPリニューアル	3頁	教職員湖陵会	7頁
「カンブリア宮殿」出演	3頁	摩周湖陵会	7頁
誠愛勇から湖陵19期の巻	4・5頁	追悼増子編集委員	8頁

北海道文化奨励賞受賞

能楽家 高橋義雄さん（湖陵20期）



高橋義雄さん

平成26年度北海道文化賞贈呈式が、昨年11月4日に札幌市内で行われ、釧路市在住で能楽家の高橋義雄さん（湖陵20期）＝釧路宝生会代表、高橋製麺所代表取締役＝が北海道文化奨励賞を受賞しました。

釧中・湖陵関係の受賞者では、平成18年度に北海道文化賞を受賞した米坂英範さん（美術、弊置中2期）、同19年度に北海道文化奨励賞を受賞した羽生輝さん（美

術、湖陵13期）に続く快挙です。1979年（昭和54年）から釧路市民文化会館で続く『新春 能』公演などが「本道における文化の振興のため、長年にわたり輝かしい功績をあげられました」と高橋はるみ道知事より表彰されました。

高橋さんは、幼少のころから津出身の祖父より郷里の盛んな嗜（たしな）みとして能楽の手ほどきを受け、同志社大学在学中は本格的に能楽に師事。帰省後は家業

の製麺業の傍ら、能楽家として道内外の能楽舞台出演に奔走しました。

釧新郷土芸術賞はじめ各賞を受賞し、釧路市教育委員会社会教育委員など公職を歴任しながら、広く市民に能楽に触れる機会を提供するなど古典芸能の振興、普及に大きく寄与しました。湖陵同窓生として誇りであり、釧路市民の一人として大いに祝いたいと思えます。 田巻 恒利（湖陵18期）



2012年釧路市民文化会館における新春能「般若」にて「葵の上」

〈略歴〉

- 1975 (昭和50) 年 同志社大学商学部卒業
- 1978 (同53) 年 釧路新人演奏会特別賞受賞
- 1979 (同54) 年 釧路市民文化会館落成記念能公演
- 1981 (同56) 年 「新春 能」公演 (毎年1回開催)
- 1984 (同59) 年 シテ方宝生流教授囑託免状受領
- 1989 (平成元) 年 釧路宝生会代表就任
- 1992 (同4) 年 釧路音楽協会高後賞受賞
- 1993 (同5) 年 釧新郷土芸術賞受賞
- 1996 (同8) 年 小鼓幸流初心者取立免状受領
- 2000 (同12) 年 釧路市教育委員会社会教育委員就任・釧路市文化団体連絡協議会副会長就任・釧路市文化奨励賞受賞
- 2002 (同14) 年 一般財団法人釧路市民文化振興財団副理事長就任
- 2012 (同24) 年 釧路市文化賞受賞



高橋知事と一緒に記念撮影 (2014年11月4日、札幌市内)



湖陵同窓会 HP がリニューアル



新着情報

- 2014年11月29日
釧中・湖陵100年史(1911年～2011年)を掲載しました。
- 2014年11月07日
同窓会長挨拶を更新しました。
- 2014年10月20日
同窓会報「くまざさ」最新号を掲載しま

湖陵同窓会

同窓会から

湖陵高校

歌で訪ねる

現・緑ヶ岡

刊行物web

湖陵高校同窓会ホームページのレイアウトを変更しました。内容を①同窓会から②湖陵高校・同窓会の足跡③歌で訪ねる湖陵高校④現・緑ヶ岡校舎の案内⑤刊行物webライブラリーの5項目に分けました。

①「同窓会から」は島本会長のあいさつから始まり、掲示板、卒業期の早見表など、同窓会からの連絡が中心です。②「湖陵高校・同窓会の足跡」は釧中、湖陵の歴史にまつわる資料を掲載しています。特に釧中・湖陵100年史は100周年記念誌をもとに製作しました。学校ばかりでなく、国や世界の動きも連動しています。③「歌で訪ねる湖陵高校」は校歌や応援歌、壮行歌などで、歌も聴けます。④「現・緑ヶ岡校舎の案内」は現在の校舎を紹介しています。⑤「刊行物webライブラリー」はくまざさや湖陵タイムスなどのバックナンバーをまとめています。

同窓会のホームページはくまざさ編集委員会で担当します。以前にたくさんの情報を入れて同窓会ホームページを作成した天内優さん(湖陵32期)に感謝しつつ、運営していきたいと思いをします。

星 匠(湖陵30期)

湖陵同窓会



<http://kushiro-koryo.sakura.ne.jp/>

釧路湖陵高校校友会報くまざさ第61号(平成24年8月発行)の「親子三代釧中・湖陵百年紀」に載った浜中町農協組合長の石橋榮紀さん(湖陵11期)がテレビ東京「カンブリア宮殿」に出演したのは昨年8月14日。高校球児が目指すのは甲子園なら全国の経営者・経済人の檜舞台は、小説家・村上龍が司会、女優の小池栄子が副司会の「カンブリア宮殿」です。これまで収益1兆円のソフトバンク孫正義氏、料理学校の東大と言われる大阪辻調理師学校長、自動車生産数世界1のトヨタ社長など錚々たる人物・企業人などが出演しました。

村上龍が番組冒頭で石橋組合長の挑戦ぶりを見て「この人は変人？」と驚き、番組の締めくくりに「異端はやがて正統になる」と結びました。

日本で最初に浜中町農協が取り組み成功したのは①土壌・飼料・乳質のデータ分析を確立した品質管理による牛乳と乳牛の生産履歴(トレサビリティ)、②就農者研修牧場、③農協が共同出資して地元異業種と連携した農業生産法人の設立、④年中無休の酪農家へ家族の日を与える酪農家ヘルパー制度、⑤組合員農地に河畔林を残す自然環境保全、⑥農協と地元商社が共同経営の養豚事業、⑦福島原発事故前すでに手配を終えた全組合員ソーラーパネル設置などまさに時代の改革挑戦者。既得権益をいかに得るか守るかない日々戦いの艱難辛苦。

組合員のため異端者と言われながら先行きに危機感を持ち職員多数を海外研修させ行政や巨大組織と戦う組合長の名が輝きました。

千葉工業大学で学んだ品質管理と労務管理の重要さを組合経営に生かし、中小企業家同友会の釧路支部長を務め全国講演を重ねました。

湖陵の宮坂寛美先生が後に浜中霧多布高校校長に赴任の時、石橋さんが浜中町教育委員を務め「教え子の方が俺より立場が偉くなり、時々教え子のご機嫌を伺ったよ」と宮坂先生が教え子を誇らしげに笑います。

石橋さんの「カンブリア宮殿」出演は湖陵同窓生として更に道東で初の快挙。湖陵がますます輝く北陸の星です。

田巻 恒利(湖陵18期)



「カンブリア宮殿」出演 石橋榮紀さん

(湖陵11期)

分析を確立した品質管理による牛乳と乳牛の生産履歴(トレサビリティ)、②就農者研修牧場、③農協が共同出資して地元異業種と連携した農業生産法人の設立、④年中無休の酪農家へ家族の日を与える酪農家ヘルパー制度、⑤組合員農地に河畔林を残す自然環境保全、⑥農協と地元商社が共同経営の養豚事業、⑦福島原発事故前すでに手配を終えた全組合員ソーラーパネル設置などまさに時代の改革挑戦者。既得権益をいかに得るか守るかない日々戦いの艱難辛苦。

絆を強めて

湖陵19期 近江隆弘・藤井正信

(釧路市在住)

入学から卒業まで

昭和39年4月8日、私たち450名は晴れて湖陵高校に入学しました。音楽、美術、書道の芸術選択科目によりAからI組の9クラスに分かれました。この昭和39年は、10月に東海道新幹線開業、東京オリンピック開催という年でした。

入学式のときに履いた真新しい革靴も一週間後には男子は下駄に変っていきました。そしてその下駄をいかに薄くなるまで履きつづか、また、いつまで履いて通学するかを競うなど、3年間今思うと何とバンカラな湖陵魂を持ち、競っていたものかと愛しくなります。

1年生のときで終わってしまっただ行事に「うさぎ狩り」がありました。いつから始まったかは分かりませんが、湖陵の一大イベントでした。1月、雪景色の鶴居の山を全校生徒で囲み、声を上げてその輪を狭めて兎を追い込むという勇ましい行事。しかし私たち1年生は、山の裾をただ横に歩いて輪をしばめる地味な動きで勇壮な

動きは無し。そしてただただ寒かったという思いだけの記憶を残して「うさぎ狩り」は幕を閉じました。

2年生の一番のイベントは修学旅行。この頃は飛行機の時代ではなく3班に分かれ9泊10日の旅行。行きは京都まで日本海回りで車中泊2日の列車の旅。皆、疲れた顔で京都駅に降り立ったものでした。しかし、前年開業の新幹線に新大阪から熱海まで初めて乗ることができ、その速さに感動、感激したものでした。

3年間通じてあったイベント「学校祭」。芸能発表、体育館で踊ったフォークダンスなど。特に行燈作成は1年生の時の初体験で試行錯誤しながら力を合わせ作り上げ、感動した行燈から始まり、経験を積んだ3年目の行燈は照明も白熱球から蛍光灯へ変わりました。光の強さが増し、色のあでやかさが際立ち、それは素晴らしいう行燈に変わっていました。そして、行燈行列の後のファイヤーストーム。グラウンドに1、2年生の行燈が積み上げられ燃え上って

る中へ、3年生はクラス毎にその周りを回って投げ込み、最高に盛り上がったものでした。

数えあげればきりが無い青春の思い出を持ち、昭和42年3月、第19期生として無事に卒業できました。

寺子屋

Part1・Part2

卒業から21年後、赤坂忠亮先生が退職される話を聞き、退職最終講義ができないかとの話が上がり、寺子屋として世界史の追試補修授業を行うこととなりました。昭和63年8月13日、湖陵高校旧校舎で「辛亥革命と現代中国」の講題のもと講義がなされ、心あたりのある30数名が集まりました。富田洋司先生、高橋陸朗先生の出席もいただき、すでに新校舎緑ヶ岡移転も決まっており、再び入ることはいないだろう旧校舎での3年間の思い出を、噛みしめながら熱心に講義を受けました。

その8年後、平成8年7月13日、高井博司先生、富田洋司先生が退職を迎えられ、寺子屋Part2として国語と英語の追試補修授業を現校舎で行うことになりました。高井先生は「金子みすず」を論じ、富田先生は「The Luncheon」を講義されました。この時もやはり心あたりのある30数名が集まりました。初めて入った校舎に、旧校舎と全く違



定山溪で行われた還暦同窓会



100周年記念の際の行われた同期会での記念撮影

う母校を感じながら授業を受けました。

いずれの時も熱心な授業態度で無事に全員追試合格をいただき、その夜の懇親会では追試からの解放感で夜が更けるまで大いに盛り上がりました。

中心幹事と同期会

平成3年、同窓会の中心幹事期となり当初は各組より2〜3名を選出し準備会を開催しました。準備会を重ねるうちに連絡網も広がり参加者も増え、総会、懇親会を成功させるための数々の提案、熱い討論がなされました。また、地方の同期生との連絡も密に取り19期全体の取り組みとなつて行いました。同窓会幹事長からは準備会が多すぎないかとクレームが出るほどでした。そして当日、同期の桜井敬一君が団長を務める釧路交響楽団の弦楽四重奏の演奏、○×クイズなどで懇親会を盛り上げるのと同時に、全員各持ち場で一生懸命奮闘し無事終えることが出来ました。

その夜の19期会の打ち上げも大いに盛り上がり、そこで正式に19期会を立ち上げようとの提案があり、翌年から同窓会当日に同期会を開くこととし、今に続くこととなりました。

還暦同期会

私たちも還暦を迎える歳になりました。札幌での同期会を平成10年ジャスマックプラザで開催してくれた札幌の同期生が再び還暦同期会の開催を引き受けてくれました。平成20年9月13日、定山溪ビュートホテルで全国から60数名の同期が駆け付けてくれました。卒業以来42年の歳月も、お互いの現況を報告しあい、温泉につかり、あつというまに高校時代に戻りました。白髪、腹回りなど高校時代とは風貌は変われど同期生。宴会では前年東京湖陵会で19期が当番期になり釧路、札幌からも駆け付けて、会を盛り上げてくれたお返しにと、東京からは全員赤いもので身を包むパフォーマンスで会を盛り上げてくれました。その後、クラスごとで部屋に集まり夜の更けるのも忘れ、話が尽きない楽しい一日となりました。

開校100周年

平成24年、創立100周年の年を迎えました。同窓会からの要請に応えるべく準備が始まりました。寄付金集め、各種行事参加要請、記念誌購入などのため、幹事数名で19期独自の案内状を発送するなど行動しました。その集約、確認や、さらなる要請のための幹

事を数多く持ちました。その結果は全てに多大な協賛をいただき、祝賀会にも多くの人が集い、改めて全国の19期生の絆の強さを感じる事が出来ました。

祝賀会のアトラクションではゲスト出演した同期の及川恒平君が所属のフォークグループ「六文銭」の歌を聞いてもらうことが出来ました。祝賀会前日には19期主催で「六文銭ディナーショー」を釧路カントリークラブのクラブハウスで開催し多くの人も聞いていただきました。いずれの日もその後、二次会でやはり盛り上がったことはいまでもありません。

これから

平成21年12月、同期の大島（渡辺）留美子さんが全日本書芸文化院の第59回全国書道コンクール師範の部特別大賞及び第38回全書芸展無審査の部準大賞のダブル受賞した時も、それを聞いた同期が集まり祝賀会を開きお祝いをしました。このように19期生は何かあれば集まって交流し楽しむことが好きな期で、これからも大いに楽しみたいと思います。

平成25年同窓会総会で同期の島本幸一君が同窓会長に選出されました。これからは19期会として100周年で見た絆をさらに強め、島本会長を少しでも支えていけたらと思っています。

同窓生の交流深める 釧中・湖陵同窓会

平成26年度釧中・湖陵湖陵同窓会が昨年8月9日に、釧路キャッスルホテルで開かれ、約500人の同窓生が参加し、交流を深めました。

校歌斉唱に続き、亡くなった同窓生へ黙祷をささげたあと、島本幸一会長（湖陵19期）が「みなさんで楽しい総会にしましょう」とあいさつ、続いて釧路湖陵高校の宮下祐司校長、釧路市の蝦名大也市長（同29期）が祝辞を述べました。

懇親会では、釧路湖陵高校の合唱部や器楽部、チアリーディング部、そして応援団が、日ごろの練習の成果をステージで思い切り発揮し、同窓生から盛んな拍手を浴びていました。星 匠（湖陵30期）



息のあった演奏を繰り広げる器楽部



校歌を歌う合唱部



華麗な演技を披露するチアリーディング部



総会であいさつする島本会長



総会でなくてはならない応援団

- 新役員は左記の通り。（敬称略）
- ▽会長 島本幸一（湖陵19期）
 - ▽副会長 白崎義章（湖陵28期）
 - 川向貴子（湖陵29期）
 - 高橋徹次（同32期）
 - 濱屋宏隆（同39期）
 - 青木一晃（同27期）
 - 佐藤文昭（同22期）
 - 鈴木豊治（同16期）
 - 中村圭佐（同25期）
 - ▽幹事長
 - ▽会計長
 - ▽監事



青木一晃幹事長
（湖陵27期）

やさしい先輩、すばらしい同期、かわいい後輩、そして母校のため感謝とお礼を込めて小間使いに徹します。



濱屋宏隆副会長
（湖陵39期）

OBをはじめ同窓生のみなさん、よろしくお願いします。



高橋徹次副会長
（湖陵32期）

一生懸命にがんばります。



川向貴子副会長
（湖陵29期）

同窓会にもっと女性が参加してほしいですね。



白崎義章副会長
（湖陵28期）

島本会長の実現したいことを補佐していきます。



中村圭佐会計監査
（湖陵25期）

同窓生のみなさんに明瞭にわかるような監査をします。



鈴木豊治会計監査
（湖陵16期）



佐藤文昭会計長
（湖陵22期）

新役員紹介

昨年8月の同窓会総会で役員に選出された方々です。新役員のみなさんには、ひとこといただきました。

創設60周年記念

鉦路教職員湖陵会(奥田泰朗会長・湖陵25期)は昨年11月15日、鉦路市内のアクア・パールで創設60周年記念式典と記念講演、祝賀会を開催しました。

同会は、鉦路湖陵高等学校出身者で鉦路管内の小中学校、高等学校の教職員や教育委員会に勤務し、教育に携わる人々で組織されています。

式典では、奥田会長の式辞、20〜23代の会長へ感謝状贈呈、来賓祝辞と続き、記念



記念講演する林教育長

林教育長が講演

講演として、鉦路市教育委員会教育長の林義則氏(湖陵25期)が『鉦路市教育の目指すもの』と題して熱弁をふるいました。

鉦路市出身の林氏は、鳥取小、鳥取中、湖陵高、そして慶應義塾大学法学部を卒業し、昭和53年鉦路市役所に入所、平成12年教育委員会学校教育課長、同21年学校教育部長、同25年教育長に選任されました。

林氏は、平成26年度、教育と福祉の連携による不登校等、教育課題を抱える家庭に対する総合的な支援施策―すべての子どもに当たり前の教育を受けさせるために―と切り出し、4年間の年次計画を、適応指導教室を中心に官と民で立ち上げ、「事業の目的」「発達段階における支援の現状」「支援体制と課題」「教育と福祉の連携」を説明しました。

さらに、「市教委が目指す最終的な構想」「鉦路市の教育を巡る最近の話題」として、○新図書館の移転改善―新しい図書館の構想○学校耐震化と大規模改造事業○世界自然遺産へ向けた活動(マリモを中心)○スポーツ界での子どもたちの活躍―を取り上げました。

最後に『練習ハ不可能ヲ可能ニス』という慶應義塾大学学長・小泉信三氏の言葉や『学力とは、学ぶ力、学ぼうとする力、そして、学んで得た力である』と締めくくり終了しました。

川端 紀一(湖陵11期)

戦時中の思い出も

摩周湖陵同窓会(岩崎寛会長、会員42人)の総会が昨年11月7日に、弟子屈町内のそば処出雲で開かれました。同会は、弟子屈、標茶町在住の旧制鉦路中学校、鉦路湖陵高校の卒業生で組織され、この日は13人が参加しました。

校歌斉唱のあと、岩崎会長(鉦中28期)は「年齢の差を越えて思い出を語り合い、交流を深めましょう」とあいさつしました。懇親会では岩崎会長が戦時中、援農や労働奉仕などで明け暮れた学生時代を語り、また、卒業時のアルバムを持参した同窓生もいて、参加した同窓生は思い出話に花を咲かせていました。

星 匠(湖陵30期)



弟子屈町で開かれた摩周湖陵会

追悼 増子編集委員を偲ぶ



増子正樹編集委員

増子正樹編集委員(湖陵20期)の御霊に哀悼の誠を捧げます。

増子さん、あなたは人一倍絵を愛し、ふるさとを愛し、仲間を愛し、酒を愛し、そしてなによりも、

老舗カクマス増子豆腐店の三代目として立派にお仕事され家族をこよなく愛された方です。

何回か入院先へお見舞いに行きましたが、お元氣そうに笑顔で語ら

られ、自分が入院したことで、家族の負担(商売の)が増えるだろうと心配しておられました。

増子正樹作



増子さんは何かの会合のあと、よく我が家に立ち寄り、私共夫婦に色々な事話を話題にして盃(さかづき)を重ねました。釧路美術協会の会長として3年後に迫った釧路美術展の1000回展をいかに成し遂げるか、釧路市民北海盆踊りの行灯制作、また平成14年以来、湖陵高校同窓会会報くまざさの編集委員として会報の挿絵や

原稿は何かいいか、日本銀行釧路支店の旧店舗活用はどうしたらよいかなど、家族のように話し合いました。

武蔵野美術大学で学ばれた、あなたの描いた絵の大作は、釧路市立病院、釧路市交流プラザさいわい、武佐の銭湯「春の湯」、入舟町の炬ばた浜番屋はじめ、釧路市内各地に飾られています。増子さんの作品をご覧になった市民や旅行者を、北国北海道の別世界に誘ってくれます。

昨年開催された、南大通ギヤラリーでの具象画3人展が最後の展示会となりましたが、夫婦で鑑賞するために訪ねたところ、あなたは会場で喜んでくれました。

増子さんの高校時代の友人、高橋義雄さん(湖陵20期)が、昨春秋に能楽で北海道文化奨励賞を受賞されたことを増子さんは大いに喜び、その祝賀会に入院のため出席できなくて残念がっていました。

弟の明宏さんの車で厚岸屯田塾の毎月の例会に度々連れて行つて

いただき、その兄弟愛に触れ合ったことも思い出の一つとなりました。

湖陵高校の大先輩、奥田達也さんを含め4人と2004年の3月、流水残る知床ウトロ温泉旅行に増子さんをお誘いしたところ、車中や旅先で熱心に風景をデッサンされました。その年の夏に知床が世界自然遺産に登録されました。二度目の個展を佐々木画廊で開催した年にちょうど登録され、花開いたことに驚きました。今となってはその知床旅行が忘れ難い思い出となりました。

亡くなられた11月20日は湖陵高校同窓会会報くまざさ編集会議の当日でした。ご逝去の悲報をお知らせし7名の編集委員と共に黙祷を捧げ、陰膳を供え献杯しました。



佐藤、川端(前列左から)、澁谷、須貝、田巻、西村、星(後列左から)

数々の思い出と共に楽しいひと時を重ねてもらいながら、あなたは突然に私より先に遠い所に逝ってしまいました。まさかの悲報に接し、周りの仲間は途方にくれています。

あなたのその謙虚で思いやりのある生き方は、周りの人々に快い感動をいつまでも残す事でしょう。結びとして、ご遺族さまにお悔やみ申し上げますと共に、あなたのご冥福をお祈りします。さようなら。合唱。 田巻恒利(湖陵18期)

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuohp.inetsec.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集委員 澁谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX
0154 (23) 0242